ネイチャーポジティブと企業
～ 多様なニーズと具体的取組～

2024年8月30日

公益財団法人 日本自然保護協会
（NACS-J）
三好紀子

NACS-J
日本自然保護協会

公益財団法人 日本自然保護協会

The Nature Conservation Society of Japan ▶ **NACS-J**

スローガン

自然のちからで、
明日をひらく。

point!

70年 以上の活動

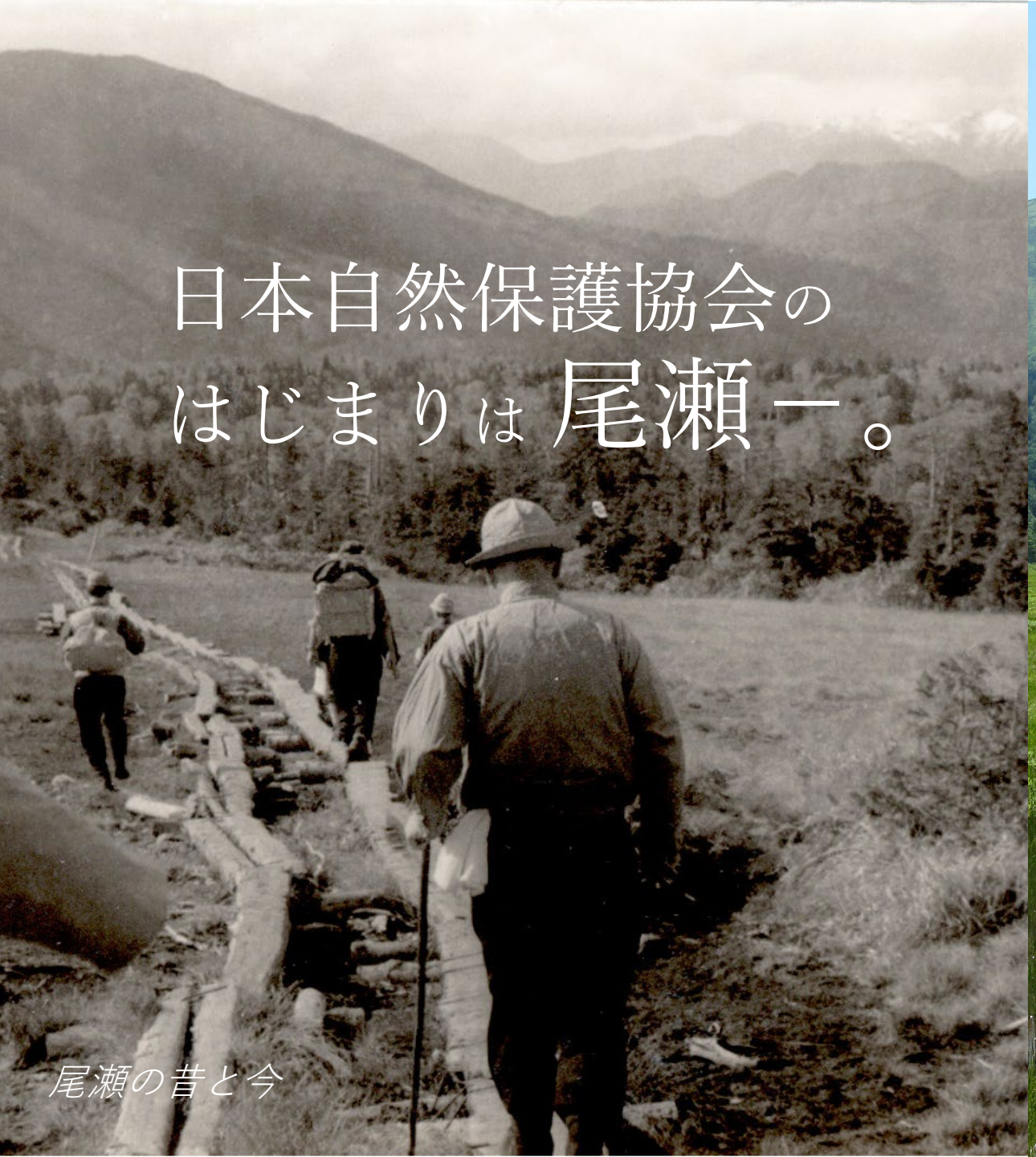
活動地は 日本全国

全国 8万5000 超えるサポーターの皆さま

これまで約 300社 の企業の皆さまと連携

国際自然保護連合 の日本事務局（IUCN-J）

NACS-J
日本自然保護協会



日本自然保護協会の はじまりは尾瀬ー。

尾瀬の昔と今

美しい尾瀬の湿原
多くの人が訪れ
自然を楽しむこと
ができること
それが誇りです

もしかしたら失われていたかもしれない

あたりまえにある自然が
これからもあたりまえにあるように

屋久島 1950年代

上高地 1950年代

小笠原 1960年代

白神山地 1980年代

三好 紀子

Noriko Miyoshi

公益財団法人日本自然保護協会
自然のちから推進部
企業連携チーム

NACS-Jでのボランティア活動をへて2002年より総務（会員サービスなど）チームで働く。出産、子育てが落ち着くと同時に2016年より企業連携チームへ。企業と地域の自然、自然を愛する地域の皆様を結びつけるべく日々奮闘中。
趣味は推し活、日本の自然や歴史、文化を満喫すること。

NACS-J
日本自然保護協会

目次

01 体感する企業の変化

02 豊かな自然と企業価値

～群馬県みなかみ町「赤谷の森」から生まれた連携～

03 ネイチャーポジティブ実現へ向けて
～企業×自治体×NGO～

目次

01 体感する企業の変化

02 豊かな自然と企業価値
～群馬県みなかみ町「赤谷の森」から生まれた連携～

03 ネイチャーポジティブ実現へ向けて
～企業×自治体×NGO～

1 自然とのふれあいの
機会と守り手を増やす

2 絶滅危惧種と
その生息地を守る

3 なくなりそうな
自然を守る

4 守った自然の恵みを
持続的な社会づくり
にいかす

2016年度 企業連携チーム発足

持続可能な開発目標

企業が社会課題解決に動く機運が世界的に高まる

※国連主導の研究プロジェクトTEEB（生態系と生物多様性の経済学）
のSDGsウェディングケーキモデル

自然環境は社会や経済の根底

ほぼすべての企業活動

（社会経済活動）は

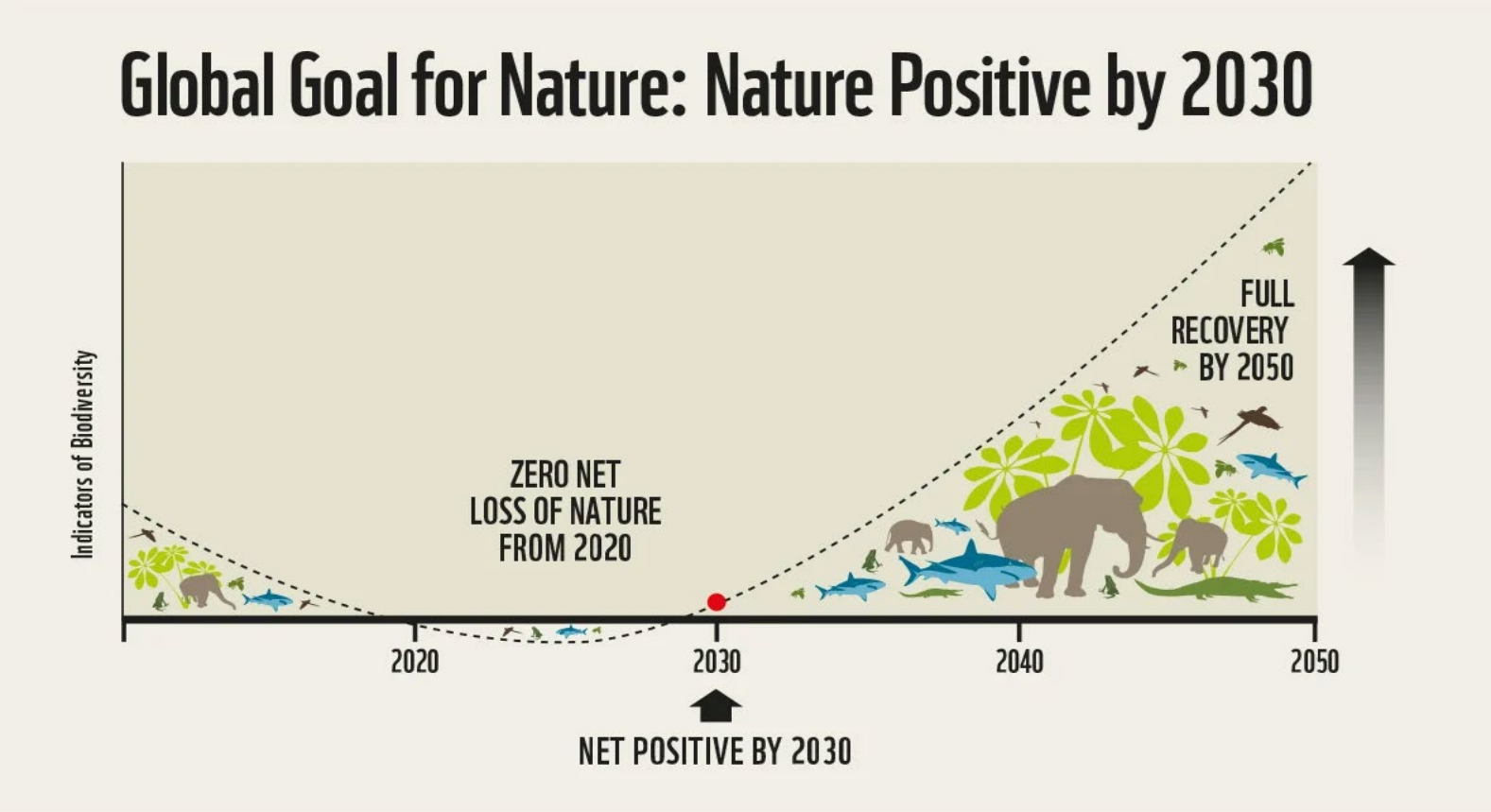
自然がなければなりたたない

ネイチャーポジティブ

国連生物多様性条約締約国会議（COP15）

昆明－モントリオール 生物多様性世界枠組み（GBF）

2030年までの国際社会や各国の生物多様性関連政策を方向付ける枠組み



出典：https://www.naturepositive.org

生物多様性の損失を喰い止めるとともに反転させるための緊急の行動をとる

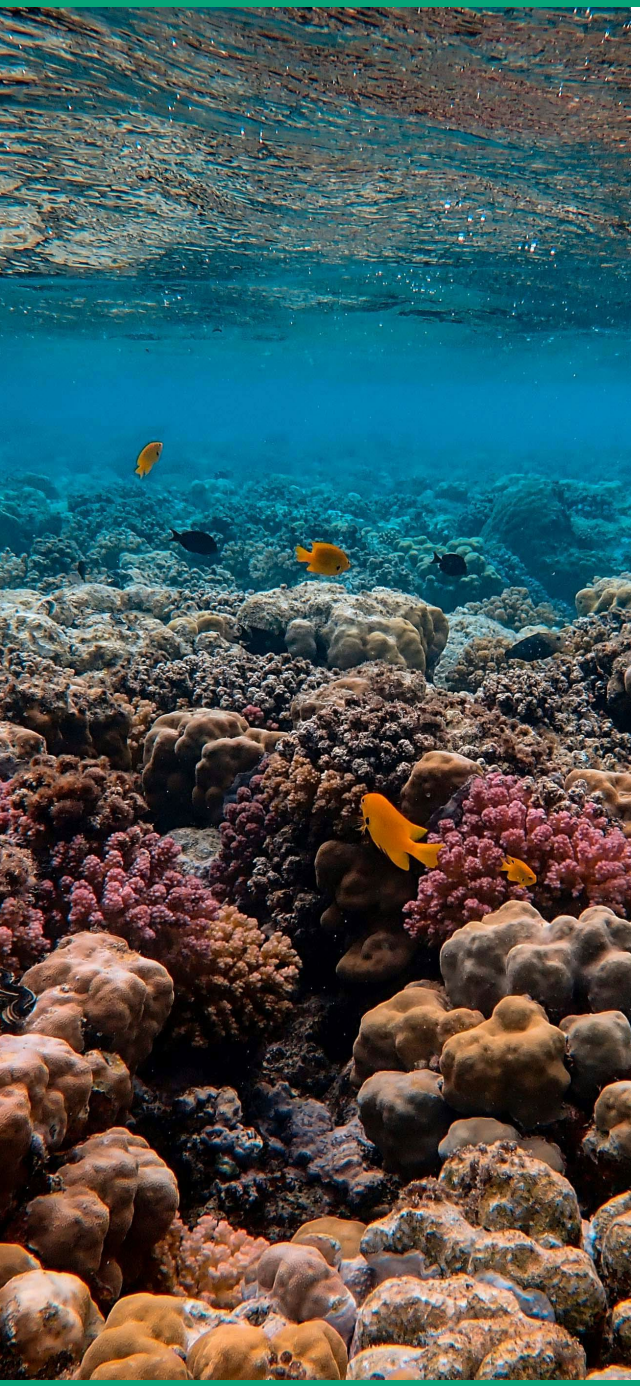
世界の流れ
と
キーワード

自然保護、生物多様性保全に取組まない企業はお客様からも投資家からも見放される。持続不可能な企業のレッテルを貼られる。

世界の企業が意識し始めたキーワード

01 | リジェネラティブ、ネイチャーポジティブ
自然を再生、回復させる企業活動

02 | NbS（Nature-based Solutions）
自然に根差して社会課題の解決を目指す企業活動



30by30

2030年までに国土の30%以上（陸と海) を自然環境エリアとして保全

2021年G7サミットでの約束

ちなみに日本の保護地域 (2021年時点)
陸域 20.5%　海域 13.3%

O　E　C　M

Other effective area-based conservation measures

保護地域以外で生物多様性保全に資する地域

2018年に開催の生物多様性条約COP14において採択

自然共生サイト

民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域を国（環境省）が認定する区域

認定区域は保護地域との重複を除き「OECM」として国際データベースに登録される。

Taskforce on Nature-related Financial Disclosures

自然関連財務情報開示タスクフォース

TNFD開示提言

ガバナンス

自然関連の依存、インパクト、リスク、機会に関する組織のガバナンスを開示する。

開示提言

A. 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会に関する取締役会の監督について説明する。

B. 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会の評価と管理における経営者の役割について説明する。

C. 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会に対する組織の評価と対応において、先住民族、地域社会、影響を受けるステークホルダー、その他のステークホルダーに関する組織の人権方針とエンゲージメント活動、および取締役会と経営陣による監督について説明する。

戦略

自然関連の依存、インパクト、リスク、機会が、組織の事業、戦略、財務計画に与える実際および潜在的なインパクトを、そのような情報が重要である場合に開示する。

開示提言

A. 組織が短期、中期、長期にわたって特定した、自然関連の依存、インパクト、リスク、機会について説明する。

B. 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会が、組織のビジネスモデル、バリューチェーン、戦略、財務計画に与えた影響、および移行計画や分析について説明する。

C. 自然関連のリスクと機会に対する組織の戦略のレジリエンスについて、さまざまなシナリオを考慮して説明する。

D. 組織の直接操業において、および可能な場合は優先地域に関する基準を満たす上流と下流のバリューチェーンにおいて、資産や活動がある場所を開示する。

リスクとインパクトの管理

組織が自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を特定し、評価し、優先付けし、監視するために使用するプロセスを記載する。

開示提言

A(i) 直接操業における自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を特定し、評価し、優先付けするための組織のプロセスを説明する。

A(ii) 上流と下流のバリューチェーンにおける自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を特定し、評価し、優先付けするための組織のプロセスを説明する。

B. 自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を管理するための組織のプロセスを説明する。

C. 自然関連リスクの特定、評価、管理のプロセスが、組織全体のリスク管理にどのように組み込まれているかについて説明する

測定指標とターゲット

自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を評価し、管理するために使用される測定指標とターゲットを開示する。

開示提言

A. 組織が戦略およびリスク管理プロセスに沿って、重大な自然関連リスクと機会を評価し、管理するために使用している測定指標を開示する。

B. 自然に対する依存とインパクトを評価し、管理するために組織が使用する測定指標を開示する。

C. 組織が自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を管理するために使用しているターゲットと目標、それらと照合した組織のパフォーマンスを記載する。

図1：TNFD開示提言（出典：TNFD,2023）

目次

01 体感する企業の変化

02 豊かな自然と企業価値

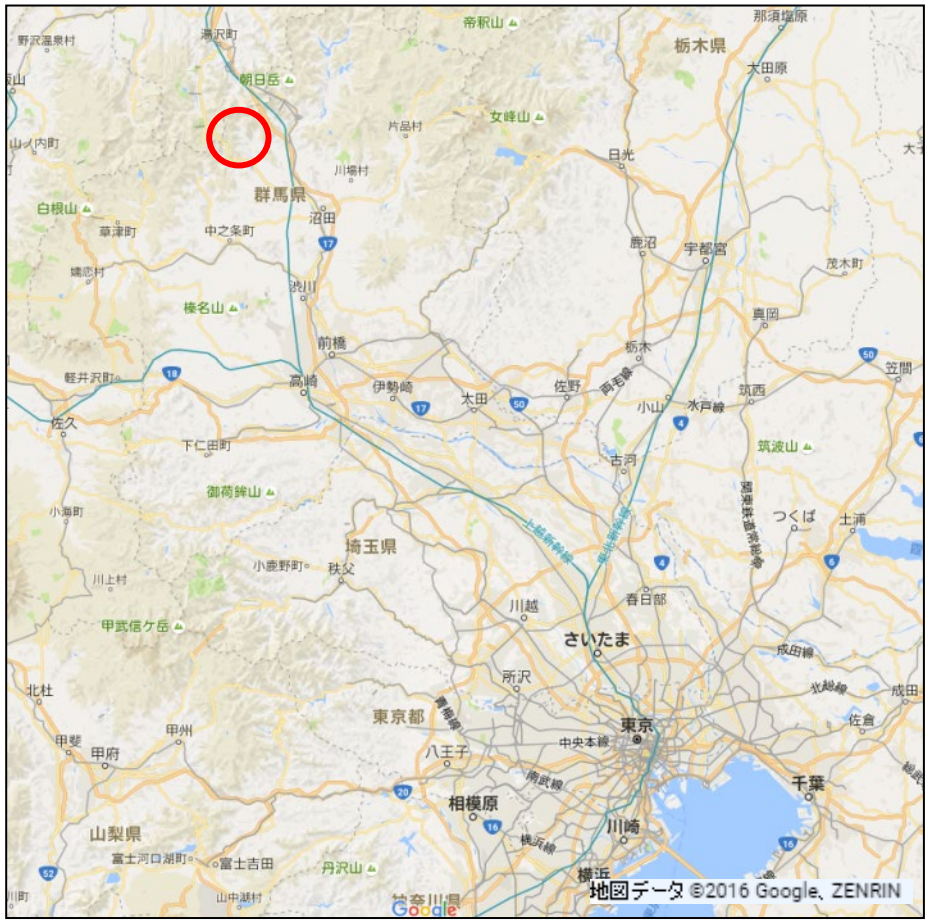
～群馬県みなかみ町「赤谷の森」から生まれた連携～

03 ネイチャーポジティブ実現へ向けて
～企業×自治体×NGO～

もしかしたら失われていたかもしれない

赤谷の森（群馬県みなかみ町）

赤谷の森（群馬県みなかみ町）
約１万ヘクタール＝山手線の内側約1.6倍



AKAYA PROJECT

NACS-J
日本自然保護協会

日本における生物多様性保全の最前線の地

2000年代初頭には**「生物多様性の復元」**と**「持続的な地域づくり」**を目標にした活動を開始**（赤谷プロジェクト）**。IUCNの事務局も務める日本自然保護協会が中心になり、国や地域と協力して**世界の情報と科学を重視**した取組みを展開。

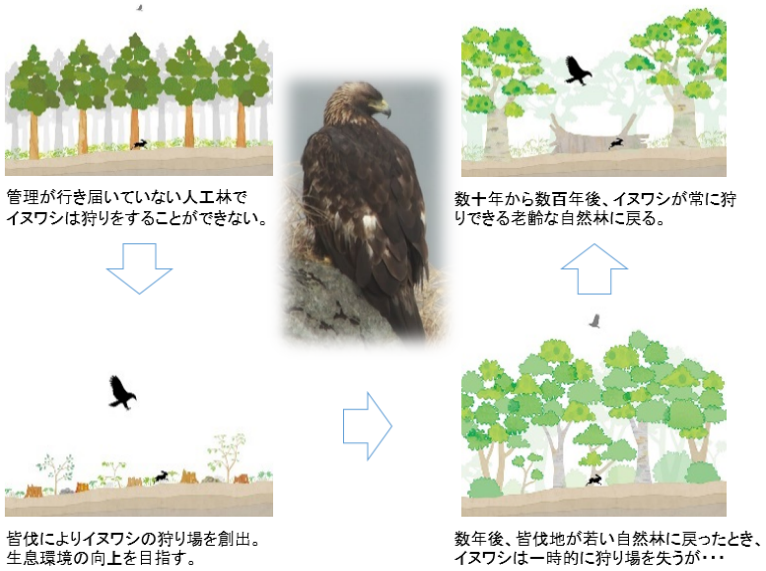
日本初の取組みとしては、**イヌワシを指標にした森林の多面的機能の回復と維持**を目指す活動や、**渓流生態系の保全と災害防止の両立**を目指す活動、**ニホンジカを低密度で維持**することを目指す活動などがあります。

2017年には、みなかみ町全域が、世界に認められた人と自然の共生エリア**「ユネスコエコエコパーク（Biosphere Reserve）」**にも認定されました。

NACS-J
日本自然保護協会

森林の多面的機能の回復と維持を目指す

内、165haは、
イヌワシを指標種に。



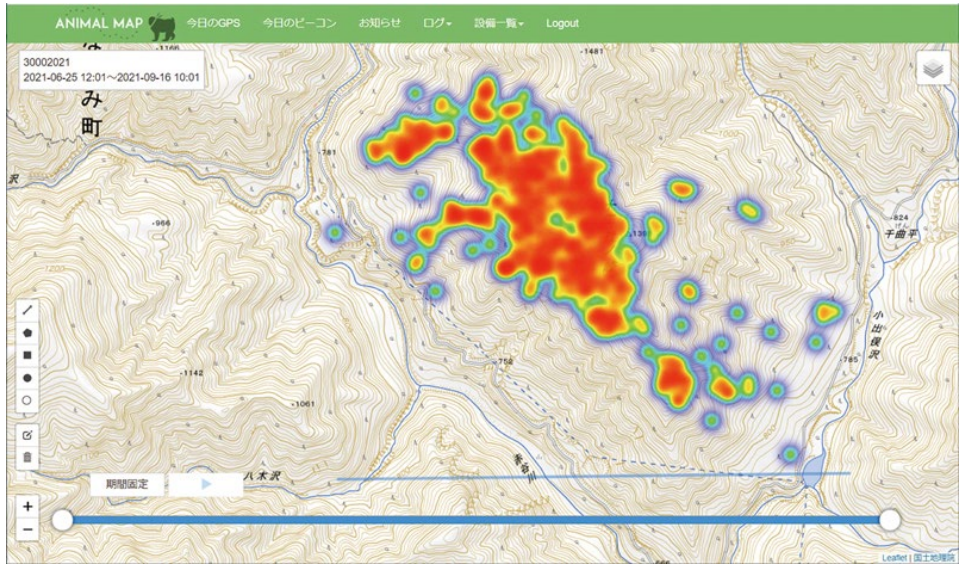
管理の行き届かなくなった
人工林を自然林へ復元

目標は、3,000haある人工林のうち2,000haを自然林へ。

渓流生態系の保全と災害防止の両立を目指す

治山ダムの一部を撤去して上下流における生態系の連続性の
確保と治山機能の両立

ニホンジカを低密度で維持することを目指す



ニホンジカの増加は全国規模の自然保護における課題。シカの行動を把握して、低密度下における効率的な捕獲技術と捕獲体制の構築を目指している。

地域の次世代を担う人材育成

すべての子どもに自然をプロジェクト

ひとり家庭を対象にした自然とのふれあいの機会を提供

絶滅危惧種イヌワシが暮らす豊かな自然こそが価値
その価値を地域や企業価値（社会・経済）の向上にも

NACS-J
日本自然保護協会

目次

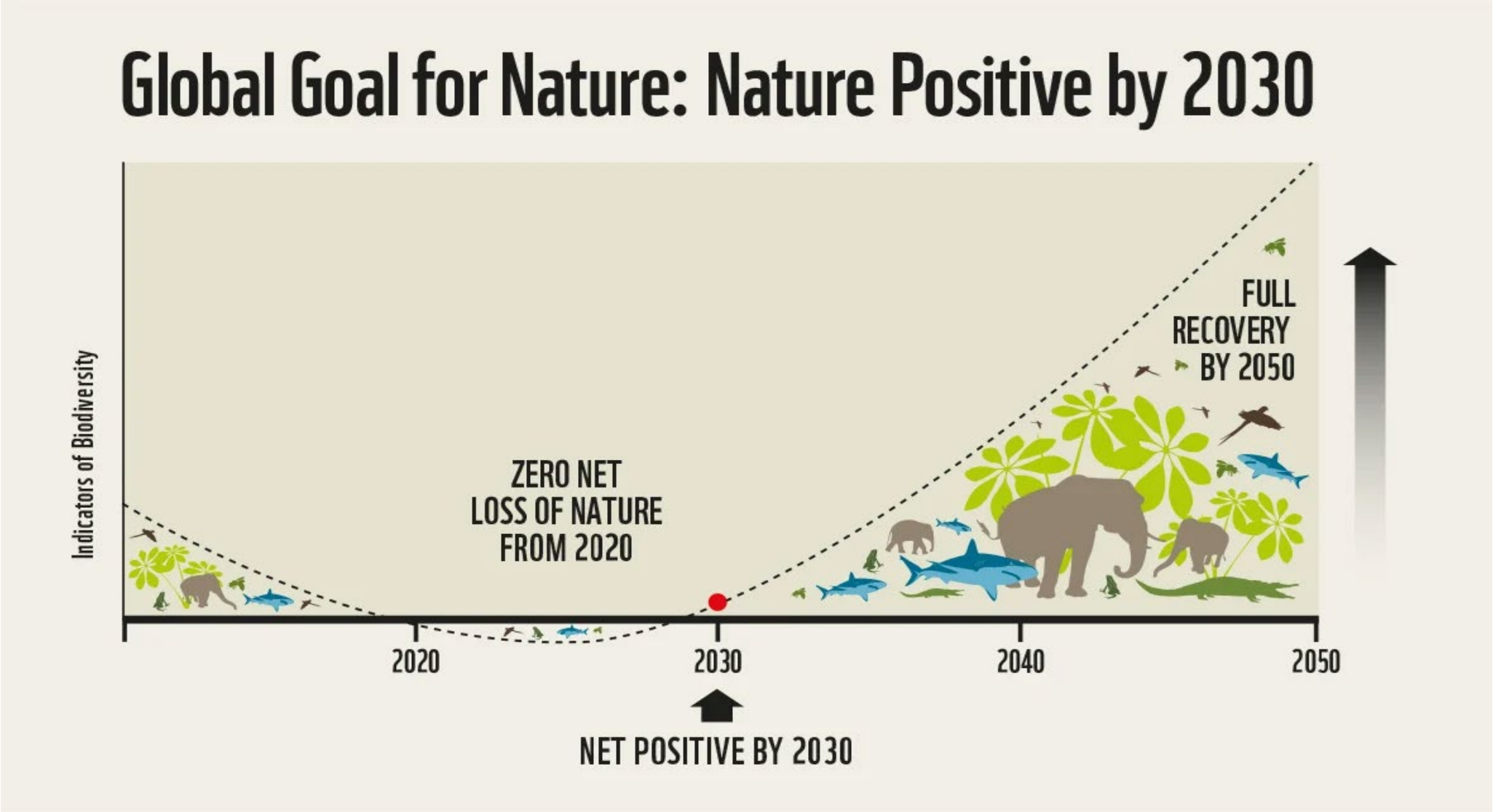
01 体感する企業の変化

02 豊かな自然と企業価値

～群馬県みなかみ町「赤谷の森」から生まれた連携～

03 ネイチャーポジティブ実現へ向けて
～企業×自治体×NGO～

ネイチャーポジティブ



出典：https://www.naturepositive.org

多くの企業の皆様が
ネイチャーポジティブ実現に向けて、
本気で考え始めた！

日本のネイチャーポジティブ実現

日本の自然は…**北海道から沖縄まで多様な自然**がある…

少なくとも**地域レベル(市町村ごと)**に視野を広げた活動をおこない、その自然を**定量的に評価**していくことが大切。

日本自然保護協会は

昨年5月	**「日本版ネイチャーポジティブアプローチ」**を発表。
今年6月	**「ネイチャーポジティブ支援プログラム」**を開始。

特　徴

- “ウオッシュ”とは言われない、地域レベル（市町村ごと）での生物多様性保全活動を推進。
- 地域の生物多様性の現状を評価して課題を特定。生物多様性保全活動の方向性を提案。それを解決する活動内容を具体化。
- 実際の活動への伴走。定期的に定量評価を行い、生物多様性や生態系サービスへの貢献度を見える化する貢献証書を発行。貢献証書の情報はTNFDにも活用可能。
- 日本を代表する自然科学と社会科学の専門家が科学性を担保。国際的な動きにも連動して推進。

NACS-J
日本自然保護協会

NACS-J
日本自然保護協会

企業×日本自然保護協会ですすめる生物多様性保全

企業が取り組むべき生物多様性保全とは。

ウェブサイトにて、様々なご支援のカタチ、連携・協働のカタチを紹介しています。

サイトはこちら↓

日本自然
保護協会
The Nature Conservation
Society of Japan